

木曽谷の木曽ヒノキの量

木曽谷には、約330万㎡の木曽ヒノキが生育しています。

「木曽ヒノキ」と呼ばれる天然ヒノキは、早くから林業等の対象となった里山地域の民有林にはもう残存しておらず、国有林のみに残っている状況です。

我が国の森林は、現在、「主として発揮すべき機能」によって3機能類型に区分されており、木曽ヒノキは以下のようなタイプ別の森林に分かれて所在しています。

(参考) 木曽ヒノキの機能類型別の蓄積

機 能 類 型	蓄積(万㎡)
水 土 保 全 林	264
森林と人との共生林	64
資源の循環利用林	2
計	330

注1：各機能類型別の施業方法は、

水土保持林：水資源の確保や、土砂崩れの防止と言った国土の保全など、安全で安心な国民生活の維持を重視した施業を行う森林。

森林と人との共生林：多様な生物の遺伝資源の保全や貴重な動植物群落の保護など自然環境の保全を重視した森林。また、森林とのふれあいの場を提供することを重視した施業を行う森林。

資源の循環利用林：生物多様性などの公益的機能に配慮しつつ、持続的、計画的に木材生産をするための効率的な伐採、造林などの施業を行う森林。

注2：蓄積は平成18年9月現在